

令和4年度第4回小金井市食育推進会議 会議録

日 時 令和5年3月8日(水) 午後2時～午後3時50分

場 所 西庁舎 第五会議室

出席委員 16人

会 長 山 岸 博 美 委員

副会長 松 嶋 あおい 委員

委 員 牧 野 ま や 委員 雀 部 かおり 委員 横 山 英 吏 子 委員

委 員 妹 尾 和 子 委員 太 田 篤 胤 委員 伊 熊 和 也 委員

委 員 北 脇 理 恵 委員 井 上 正 子 委員 服 部 聡 委員

委 員 萩 原 英 幸 委員 桜 井 努 委員 保 谷 匠 委員

委 員 松 本 祐 子 委員 中 谷 行 男 委員

欠席委員 0人

---

事務局職員

健康課長 伊 藤 崇

健康課主任 近 藤 仁 美

健康課主事 矢 島 幸 子

---

傍 聴 者 0人

(午後2時 開会)

○事務局 それでは、お二人だけまだお見えになってないんですけども、定刻になりましたので、始めたいと思います。本日はお忙しい中、いらしてくださいまして、どうもありがとうございます。場所も急に変更になってしまって、ちょっと分かりづらいところだったんですけども、本当に皆さんすんなり集まっていたいただきありがとうございます。

ちょっと温度の設定がなかなか難しく、全部開放放している状況なんですけれども、大丈夫ですか。

もし途中で気分が悪くなったりなどありましたら、遠慮無く言ってください。それから、すいません、お手洗いがこの階にはなくて、この廊下を真っすぐ行きますと、階段があるんですけども、階段を下りたところにお手洗いとなっておりますので、もし利用する方は、出て左のほうに行って、階段を下りてください。よろしくお願ひいたします。

それでは、令和4年度第4回小金井市食育推進会議を始めたいと思います。よろしくお願ひします。

○山岸会長 では、改めまして、皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しいところ、御出席いただきありがとうございます。それでは、これより、令和4年度第4回小金井市食育推進会議を開催させていただきます。

初めに、委員の出欠に関して、事務局のほうからお願ひいたします。

○事務局 本日の委員の方々の出欠でございますが、現時点で、本日は、会長を除きまして15名全員の出席となっております。過半数以上の出席となっておりますので、審議会として成立することを御報告いたします。

それから、次に、配付資料の確認をいたします。本日机上に配付させていただきましたものとして、まず、本日の次第、名簿、小金井食育推進検討委員会設置要綱という資料です。それから、その次が第3回食育推進会議の会議録案。その次が、子ども食堂と子ども食堂pommeの訪問報告、フードドライブという3枚の紙が、一応、表裏刷ってあるので、2枚を一緒にとじてあります。その次に、カラーの「作り置き、はじめませんか？」という小金井市食育ホームページのチラシになります。それから、最後に、第4次小金井市食育推進計画。水色の冊子の閲覧用を置かせていただいております。

何か足りないものとかございましたら。大丈夫ですか。お手元に資料がない方がいらっしゃいましたら、途中で気がついて、過不足等ございましたら、事務局のほうにお願ひいたします。

それから、閲覧用の冊子は、お帰りの際、机の上に置いたままでお願ひいたします。以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。委員の皆様、資料のほうは大丈夫でしょうか。

それでは、意見提案シートについて、事務局からお願ひします。

○事務局 意見提案シートの提出はありませんでした。

○山岸会長 ありがとうございます。

議事進行に入る前に、健康課で異動があったとのことなので、事務局のほうからお願ひできますでしょうか。

○事務局 1月17日付で健康課長が替わりました。前の石原課長に替わり、伊藤崇課長になりました。課長、一言お願ひします。

○伊藤健康課長 すいません。挨拶が遅れまして。1月13日付ですね。

○事務局 ごめんなさい。

○伊藤健康課長 大丈夫です。石原から私伊藤に健康課長が替わりましたので、皆様、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○山岸会長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。「進捗状況調査についての各課からの意見について」について、事務局からお願いいたします。

○事務局 本来でしたら会議録の承認を先にいただくところですが、会議録の内容に関わることなので、すいませんが、この議題が終わったら承認していただこうと思っております。

前回の会議後、食育推進検討会議を书面開催いたしました。食育推進検討会議は、別紙、上から3枚目に、小金井市食育推進検討委員会設置要綱という紙が1枚あります。裏はありません。ここの第3条のところに、どういう課で構成されているかというものが書いてあると思うんですけども、こちらの第3条のとおり、食育関係課9課で構成しております。それから、そのメンバー以外の食育推進計画の実施状況調査に協力した課も含めて、既に公開済みの第2回食育推進会議録と、それから第3回の今ではまだ案なんですけれども、会議録案に対し各課の意見を募集しました。

ほとんどの課が意見なしでした。意見があったところは、ごみ対策課と介護福祉課の2課でした。ごみ対策課からは、既に公開している第2回食育推進会議記録——こちらは今日、資料はないです。その中で、委員の方が発言の中で、課の名前がごみ対策課ではなく、ちょっと違う名前のところがありましたということの指摘がありました。

それから、介護福祉課から、お手元の第3回食育推進会議会議録案の10ページ。いろいろ書いてあるんですけども、ごめんなさい、もう既に訂正してしまっているの、ないんですけども、「介護福祉課のほうでは高齢者ほか精神障がいの方が健康的な食生活を送るように」という事務局からの発言だったんですが、精神障がいの方の方は介護福祉課ではなく自立生活支援課のほうになるので、一応、介護福祉課のほうはというふうになるので、後ろ、「精神障がい者」という言葉を削ってくださいということで、そこは削って訂正してあります。

どちらも配食サービスはやっておりますが、介護福祉課のほうが高齢者、それから、自立生活支援課のほう精神障がい者型の方の配食サービスを行っておりますので、訂正いたしました。

以上、本日承認していただく第3回会議録案は、既に訂正済みになっております。

○山岸会長 ありがとうございます。以上が事務局からの説明となります。課の管轄のほうと名称とこのところの訂正ということで、訂正済みということだそうですね。このことについて意見のある方はい

らっしゃいますでしょうか。

内容のほうですが、少し時間を取りますので、御自身の発言内容についても確認していただければと思います。

確認のほうは大丈夫でしょうか。では、この案でよろしい方は挙手をお願いいたします。

( 挙 手 )

○山岸会長 ありがとうございます。

それでは、次の議題に移ります。次の議題は、子ども食堂とフードドライブについてです。井上委員さん、どうぞよろしくをお願いいたします。

○井上委員 フードドライブも子ども食堂も何回か話題にのぼっていたので、またかという感じになりますけれども、最後にというふうに思いまして、もう一度、皆さんにまとめるような感じでお話したいと思います。

フードドライブからいきますけれども、フードドライブというのは、もう御存じのように、社会福祉協議会と市役所とで食品を拠点で回収して、福祉施設などに届けて、食品ロスを削減することが大きい目的です。毎月1回水曜日に、社会福祉部会のところに皆さんいろいろな食品を持っていらっやいます。

ここでも、一度、油はどうなのかとかというお話もありましたけれども、油も別にオーケーなんですけど、ただ、受け取るほうの人はあまり料理はしないということで、それで、簡単に食べられるインスタントものとか、ちょっと料理して食べられるそういうものがあるというふうにお話がありました。

それから、一番大きいのは、年越しに食支援騒動フードドライブが実施されて、今年は3回目になりますけれども、12月12日から23日、270名の人が5,300点持っていらっやいました。今年は、取りにいらっやる人が、学生さんが100人以上いらっやったようなんですけれども、コロナでバイト先が少なくて、収入がなくて、やっぱりフードドライブで助かったというふうに言っていた学生さんが多かったようですが、学生証を見せてもらって、それから渡していたということです。

こういうことを何とか発展させていきたいと思うんですけれども、難しい問題がたくさんあります。取り組むことが、大きくしていくことは、必ずしもいいというふうにも思えないところもあったので。ただ、年末、大変なときに、民生委員の方も助けられて、何とか今年も、去年ですけれども、終わったようです。とても好評だったようです。

それから、子ども食堂のほうにいきます。子ども食堂のほうもお話が行っていたと思いますけれども、子ども食堂のほうは、pommeというところに子ども食堂を訪問していました。小金井神社の近くなんですけれども、小さい庭がある一軒屋でした。当日は5時頃訪問したんですけれども、既に食事が用

意されていて、女性4人の人、2人で小さい台所で作って、1人の人が準備をして、もう一人は子供たちが遊ぶのを見守っているという感じで、それでもういっぱいという感じでした。

補助金は出ますけれども、ほとんど材料費で消えてしまうということです。これを毎月毎月やっていくのは本当に大変だなと思って、よくやってくれていると思って頭が下がる思いでした。このpommeを卒業した中高生が別の場所で、学芸大学の近くか何か、北町のほうだと思うんですけども、そこでまた違う形で続けてやっているという話も聞きました。

皆さんよく頑張っていたというふうに思って、私も途中で手伝おうかと思ったんですけども、スペース的にもちょっと無理かなというふうに思って、衛生的にもいろいろやらなきゃいけないこともあるのに、途中から手を出してはというふうに思って、あまりお話も聞けなかったんですけども、見て帰ってまいりました。以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。今の井上委員のお話について、質問ですか御意見、こういった提案とか何かございましたら、どうぞ積極的に御意見いただければと思っております。

○太田委員 よろしいでしょうか。

○山岸会長 よろしくお願ひします。

○太田委員 pommeのお話なのですが、お子さんは何歳ぐらいの方なんですか。

○井上委員 小さい子から、小学校高学年の子はほとんど少ないんですけども、小学校低学年から、学童保育が終わってみんなこっちへ来るという、そんな感じでした。十六、七人になりますかね。

○太田委員 ありがとうございます。

○山岸会長 ありがとうございます。

○井上委員 一番印象的だったのは、お母さんが小さい子をおんぶして自分で連れてきて、お母さんは500円払わないとあれなんですけれども、500円払ってスムージーを作ってもらって、子供と一緒に食べて帰るというような、そういう人が何人かいらっしゃいました。

○太田委員 常連の方なんですか。

○井上委員 あんまり深く話は聞けなかったもので。

○太田委員 そうですね。こういう施設というのは、小金井には大分あるんでしょうか。

○井上委員 ええ。ほかにある。一番あれなのは、「また明日」という子ども食堂があるんですけども、そこが月に2回ぐらいやっている。そこを私が行って見たらと言われたんですけども、ちょっと場所も遠くて、夕方だったものですから、行かれなかった。

○太田委員 ありがとうございます。

○山岸会長 ありがとうございます。

○萩原委員 こちらの子ども食堂のほう、pommeさんもそうですし、また明日さんもそうなんですけれども、農家サイドからは野菜の提供をさせていただいています。pommeさんは、私の知り合いもいた関係でちょっとお話いただいて、毎月、お野菜のほうを提供させていただいていますし、また明日さんのほうは、そこに行っている子供たちが実際うちの畑に来て、畑から野菜を収穫して行って、実際に子供たちも一緒に調理をするという形でやっているそうです。一応こんな形で、少しずつですが協力はさせてもらっています。

○山岸会長 ありがとうございます。

○太田委員 これは毎日なんですか。さっき月2回という。

○井上委員 pommeさんは1回です。

○太田委員 月に？

○井上委員 月に。

○太田委員 そうですか。

○山岸会長 よろしくお願ひします。

○松嶋委員 pommeさんというのは、りんごっこハウスさんですね。

○井上委員 そうですね。赤いあれで。

○松嶋委員 拠点をつくられたということで。やはりそちらもそうですけれども、また明日さんも、食育にちょっと興味を持って。ありがとうございます。また明日さんのほうは、一緒に豚汁を作った。

○萩原委員 そうですね。あそこは結構いろいろ、畑を回って、体験のことも子供らにやらせてもらっているんで、お付き合いは深いんですけれども。

○井上委員 すいません。希望として、物を運ぶのに車があったらすごく、貸してもらえないだろうかという話は希望として出てきたんですけれども。

○萩原委員 それはどういう……。配送という形ですか。お弁当の配送とかですか。

○井上委員 食品や何かを運ぶんだらうと思うんですけれども。それはやっぱりちょっと違いますか。

○山岸会長 ほか何かございませんでしょうか。子ども食堂って……。どうぞ、先。

○北脇委員 北脇です。子供の居場所サイト「えにえに」のほうのサイト編集長をしております。そちらのほうに子ども食堂の取材記事とかも載っておりますので、よろしかったらそちらを見ていただくと、イラストと、あとメッセージのほうでとても分かりやすくなっていると思います。

そちらのほうなんですけど、一応、子供が自分で居場所を見つけるサイトとなっておりますので、子供発信になっていきますので、言葉がすごく簡単になっていたりとか、漢字が少なかったりとかしています。大人が読むとちょっと物足りないかなとは思いますが、一番の目的としては、どんな方がやっていて、

どんなことができて、どんな場所なのか、初めていく子が気兼ねなく行けるように、そういった第一歩を、背中を後押しするようなサイトになっていますので、そちらを見ていただくと、ちょっと物足りないかもしれないんですが、様子が分かりますので、御興味ある方はそちらで見ただけであれば、小金井市でどういう子ども食堂があるか見られると思います。よろしくをお願いします。

○北脇委員 「えにえに、小金井」で検索していただけると。平仮名で「えにえに」ですね。出ると思います。こちらは小金井市の補助事業でやっておりますので、営利目的ではなく、補助事業だけでは足りないの、半分ボランティア的な要素はあるんですが、見ていただければと思います。

○山岸会長 ありがとうございます。

こういった子ども食堂は、ニーズというか、必要性はすごく増えてきて、社会的にもかなり認知はされてきていると思うんです。でも、その反面、逆に、本当にボランティアのみで成り立っているという、そこがだんだん、需要と供給。

○山岸会長 ボランティアの人材確保と供給の乖離というんでしょうか、本当に御厚意で成り立っているんですが。先日、私もニュースを見ていて、この子ども食堂を災害時の拠点にする活用もどうだろうか。要は、大量の食事を作るスキルというか、場所とか人がいるのというようなことも言われている中で、よく今言う持続可能ですか、そういった意味で、子ども食堂を運営していくには、こういったことが……。

○井上委員 場所と人、そういう人を育成するというんですかね、そういうのが難しいと思うんです。

○山岸会長 なるほど。場所と人ですね。

○井上委員 場所がないという。やっぱりここは一軒家なので、多少音がしても、そんなに近所からということはないようですけども、マンションだったりアパートだったりすると、ちょっとそういうわけにいかない。十何人の子供たちがいれば、どうしてもドシンバタンもある。

○山岸会長 なるほど。ありがとうございます。いかがでしょうか。ほかに何か御質問ですとか御意見は。よろしくをお願いします。

○妹尾委員 子ども食堂は存じ上げていますし活動内容もよく分かっていますが、本来ならば、国か市がやらなければいけない仕事をボランティアという形に頼ってしまっているというところが最大の問題だと思うんです。素晴らしいことはとても素晴らしいんですけども、手放してそれを喜ぶことはできないということを忘れないようにしないと。本来ならば税金でやるべき支援だというふうを考えています。

○山岸会長 ありがとうございます。なかなか……。

○井上委員 一番の目的は、子供の孤食をなくすということが一番だと思っていて。食事をすることで

すね。

○山岸会長 原点はそこだったかもしれないですね。子ども食堂。

○井上委員 そうですね。少し変わってきていますね。

○山岸会長 それがコミュニティーの場ですとか、いろいろな付加価値というか、要求がついてしまっ  
て、ちょっとアップアップになってしまっているというところもある。

○井上委員 ボランティアで全部あれをやるというのは本当に大変なことだと思って。それ以上私も何  
も言えなくて帰ってきましたけれども。

○山岸会長 ありがとうございます。今は一旦、子ども食堂を離れて…。フードドライブについて何か。  
よろしくをお願いします。

○妹尾委員 「難しい問題が多くある」というのは、具体的に言いますと例えばどんなことが課題とし  
てあるのでしょうか。

○井上委員 フードドライブも、さっきお話があったように、需要と供給というんですかね、がちよう  
どよくならないと、いつまでも、たくさん持ってきていただいているものをいつまでも置いておくわけ  
にもいかないし、場所もないし、足りなくても困るしと、そこがちようどよくならないというところ  
も問題ですし、本当にその人が生活に困ってあれなのかということも、見極めるのもかなり社協のほう  
でも大変だというような話もありました。

○妹尾委員 ありがとうございます。

○山岸会長 ほか何かフードドライブに関して課題はありますでしょうか。

このフードドライブのもともとの目的も、食品ロスをなくそうというところが原点であったかと思う  
のですが、これもいろいろな要望というか、いろいろなことがあって、今、割と定期的にこういったフ  
ードドライブを行うとかこれを活用するというようなこともありますけれども、いま一度、フードドラ  
イブは食品ロスですし、子ども食堂は孤食をなくすという目的のために、どうしていけばいいかとい  
うようなことをまた精査しながら進めていくとよいのかなというふうに思いました。

○井上委員 取りあえず、皆さんの御協力をという。

○山岸会長 ありがとうございます。またこの後、全体的な協議でも御意見をいただければと思っ  
ております。ありがとうございました。

それでは、次に、食育ホームページ編集委員会のほうからの報告をお願いいたします。

○雀部委員 皆さんのところにお配りしているこのチラシを、成人式のとくに、成人された皆さんにお  
配りするという話で前回終わりましたが、お配りしました。今回、渋い感じに仕上がっていますけれど  
も、作り置きが一応テーマ。何日も、たくさん日持ちをさせるというわけではないですけれども、まと

めて作って、2回に分けて食べるとか3回に分けて食べるということも比較的しやすいのではと思われるレシピをたくさんあるレシピの中から選んで、「作り置き」というタグをつけて、レシピサイトからも検索できるようにしてあります。QRコードがついているので、若い方も知りたければ、そこから簡単に見ていただくことが、今、QRコードをつけるで見ると見るのがとても早くなるので、必ずつけてチラシのほうをお配りしています。

多分、見てちょっと食べたいなとか、どうやって作るんだろうとか、おいしそうとか思っていたければ、そちらのほうに誘導できるかなと思ったので、3品ほど、和洋中ということで献立的にして載せています。野菜も結構たっぷり使われて、種類もいろいろ入っているので、ちょっと役に立てばいいかなというふうに思います。

それから、食育ホームページのレシピのほうは、今、3月は制作中なんですけれども、2月のレシピが白菜と豚肉のミルフィーユということで、白菜が名残の時期にはなってしまいましたが、レシピを出したのが2月の末でしたので、最後を味わっていただくという感じになりますけれども、重ね煮のような形のたっぷり白菜を食べられるレシピになっているので、よかったら御覧ください。

それから、食育カレンダーを、いつも秋口に作っているのを、レシピのほうから協力はさせていただいているんですけれども、以前、レシピの中から、小金井で作られている野菜の合ったものをレシピとして出しているときに、もし御希望の野菜とかのレシピが新たに欲しいということであれば、早めに言っていただければ、季節に合わせたものを考えることも可能ですので、直前でその中から選ぶというよりは、もうちょっと前向きな形で、こういう野菜を積極的に広げていきたいのでこういうレシピが欲しいということをもっと早い段階で言っていただければ、まだ時間はありますので、考えることもできるかなというふうに思います。

以前ちらっと聞いた話では、もうちょっとマニアックな野菜というか、あまり生産量は多くないですけれどもちょっと変わった野菜なんていうののレシピも、満遍なくどのレシピも幾つか載せてはいるんですが、例えば、よく一般的に使う野菜のレシピがもっと厚めにほしいのであれば、言っていただければ、そこを増やすことは可能ですので、御連絡いただければなというふうに思っています。以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。

○松嶋委員 補足です。その件に関して、この間、桜井さんにお預かりして、今、小金井市でこの月には何が多いという野菜の資料を頂いたので、あさって会議なので、それを共有して、例えば、大根がトップだったら大根とかいうふうにやっついこうと思うんですけれども、あれには、さっき言った珍しい野菜というか、ハヤトウリとかレシピを紹介しているんですけれども、また、夏カボチャとか、そういう売れ線なんですけれども、値段には上がってこないけれども、割と農家さんが推したい野菜があれば、

私たちに共有していただければ、その月に、その月すぐにはできないと思うんですけども、大体今ぐらいだったら、5月ぐらいにこういうのレシピがあったらいいなぐらいのことを言っていたら、それを購入してレシピ化することができる……。

○雀部委員 1年分まとめてでもいいです。野菜を教えていただければ、それに沿ったものは考えているかなとは。

○松嶋委員 そうですね。私、個人ごとなんですけれども、3月レシピはプチヴェールかのらぼうで迷っているんですが、プチヴェールでやってほしいみたいなことがあればプチヴェールで作りますし、のらぼうの方が良いと言われてたらのらぼうで、今、そんな感じの、いつも、ちょっとJAに今日も行ってきたんですけども、売れている野菜とか多い野菜を見て、それで買うようにしているので。連携が取れて、それが楽に食育カレンダーに落とし込めれば、直前の会議とかじゃなくても、ここからご覧いただくということにいただければいいかなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○山岸会長 ありがとうございます。どうでしょうか。今年はこういったものを、作付をちょっと増やして推していきたいというようなお野菜とか、ぜひこれはという何かありますでしょうか。

○萩原委員 さっき言っていたプチヴェールなんかも、最近、作っている人、ちょっと増えてきたので、あれも非常においしくて人気ある商品なので。多分、ほとんどゆでて食べるという人が主なので、違う食べ方、紹介があると面白いかなとは思いますがね。

○山岸会長 プチヴェールは見た目もかわいらしい。

○萩原委員 見た目もすごいきれいで。

○山岸会長 きれいですよね。

○松嶋委員 味も柔らかくて。キャベツの結球してないものなんですけれども、キャベツと……。

○萩原委員 ケールです。

○松嶋委員 ケールのいいとこ取りの野菜ですね。

○山岸会長 スムージーにしてもおいしそうですね。

○萩原委員 そう。おいしいので。あれは実もおいしいんですけども、春先のつぼみがまたちょっと違っておいしいんです。

菜の花、菜花系なので、同じような花が咲くんですけども、あのつぼみがまた非常に、食感がまたちょっと違うので、非常においしいです。えぐみも少ないので。

○山岸会長 そうなんです。なるほど。そういった情報を聞かせていただきながら反映していくと、よりホームページの……。

○井上委員 それを売っているところの隣に、調理の方法を書いてくれると、うちへ帰って調べて作る

というのはなかなか……。

○山岸会長 JAでは棚がありますよね。

○萩原委員 棚は置いてあるんですけども。

○井上委員 JAでもそうなんだけど。

○萩原委員 結構要望があるのは、袋の中にそういうものを入れてほしいという。各個人農家だと、やるのは大変で。

○井上委員 よく友達とJAに買いに行くんですけども、これどうやって食べるのか分からないよねと言って、また置いてという。

○萩原委員 そうですね。知らないとやっぱりそうなると思うんですけども。

○井上委員 なかなか、うちへ帰って調べてまではという。

○松嶋委員 買っているとよく聞かれるので、そこで説明して、あそこにずっと立っていようかしらと思えます。

○井上委員 じゃあ買おうかしらという。

○雀部委員 それこそQRコードを横につけるのはどうですか。

○松嶋委員 食育ホームページ。

○雀部委員 食育ホームページの。

○萩原委員 そう。それは僕もさっきちょうど思ったので、全体的に……。

○雀部委員 一段階にぱっとは見られないですけども、QRコードで読み取っていただくと……。

○松嶋委員 プチヴェールで検索みたいな。

○雀部委員 検索もできる。

○萩原委員 多分、野菜とかじゃなくて、そのコーナーのところどころに置いておいて、ちょっと見もらえるような雰囲気になれば、すぐ見られるかな。

○雀部委員 そうですね。だから、近くにQRコードがあるという感じで見ていただければ。もともとは、紙ベースでレシピを書くというような、そもそもそういう趣旨ではないので。今の方は、多分、スマホで読み取るほうが早いかなと思うので。そのものがぱっと出てくるわけではないですけども。でも、小金井市食育ホームページの、例えば、野菜名を入れると出てきたりとかするので、それでもいいんですが。

○萩原委員 いいと思います。

○雀部委員 QRコードを要所要所に散らばしていただけるとありがたい。

○松嶋委員 それこそ、このQRコードですぐに窓が出るので、そこにプチヴェールとか入れてもらう

と。

○萩原委員 いいですね。

○雀部委員 よろしくをお願いします。

○山岸会長 ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

QRコードは便利ですね。今の方は、そこで映った画面をスクリーンショットして保存しておいて、じゃあ、作るとき見ようかというふうにして。文字が小さくても、画面が大きくなれば文字も読めるので、本当にそういった技術もどんどん取り入れていけばいいなというふうに思っているところです。ありがとうございます。

ほかに何か御意見ですとか。

○太田委員 ちょっとPRですけれども、ホームページのお手伝いをさせていただいておりますが、一番回っているのはレシピのところ、そこで何か御協力できないということで、栄養成分表示を全部につけるとのことやらさせていただきました。ただ、ちょっと問題があつて、野菜と、計算されない芋とかキノコとか海藻とかが入ってしまっているのはつけてないんですけれども、もう136ぐらいですかね。そのうち100以上にはつけましたので、今後もつけさせて……。おいしさは重要だと思いますが、栄養も少し考えたほうが。特に減塩については大切かなと思ひまして。そんなことをお手伝いさせていただきます。

○山岸会長 ありがとうございます。では、よろしいですか。よろしいですか。

○山岸会長 ありがとうございます。

実は、今日はこれで議題のほうは以上なんですけれども、もし何かその他ということで。まずは、事務局さんのほうから何かございますでしょうか。

○事務局 今回が今年度最後になりますので、ここで、会長の山岸先生に少しお話をさせていただくとよろしいかなと思ひまして、山岸先生に今回お願いいたしましたので、山岸先生、どうぞよろしくお願いいたします。

○山岸会長 ありがとうございます。ということで、お話というふうに言われたのですが、ぜひ、今日は最後なので、お一人ずつ何か一言いただきたいなというふうには思っているんですが、私のほうからまず最初に、少しお話をさせていただきます。

まずは、今年度1年、本当に委員の皆様の御協力により、無事2022年度の食育推進会議のほう、こうやって進めさせていただいたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

私も何を話そうかなと考えているんですが、私も自分なりに、大学を卒業して管理栄養士という職種として仕事をしてきて、食育というものに携わらせていただきました。そういった中で、こういった御

縁で小金井市様の食育にも関わらせていただくこととなりますので、今年度1年参加させていただいて、また次年度、こんなことを委員の皆様とお話できたらなということで、少しお話をさせていただきたいと思います。

その前に、私ごとですが、自分が大学を卒業して、学校給食に携わる中で、もう、30年以上たつんですけれども、管理栄養士の仕事、一番大きかったことは、平成8年に起きたO157食中毒なんです。あれはたしか西暦で言うと1996年なんです。なので、もう26年経過しております。私は今、大学のほうで管理栄養士、栄養士の養成をしているのですが、26年経過しているのに、学生はO157の食中毒のときに何が起きていたのかということは全く知りません。

そういった中で、食の安全ですとか安心というものを教えていかなければならないということで、毎回同じことを言うのですが、本当にあのとき、平成8年に、あれは5月か6月でしたでしょうか。給食を食べて児童が亡くなってしまったんですね。自分の作った給食で人の命が奪われるという、その事件を聞いたときに、本当に背筋がもう本当に凍る思いでした。でも、給食を作っていかなければならないんです。その中で、私たちはまず何をしたらいいんだろう、どうやったら防げるんだろうというふうに、本当に日々、恐怖と緊張と、でも、前を進んでいかなければならない。まずは、命を守るために私たちは何をしていかなければならないのかというようなことを、試行錯誤をしていた、ただ、もがいていたかもしれません。そういった記憶があります。

そのときに、O157という食中毒も、私自身は初めて聞いた原因菌でして、そうしたときに、加熱すればいいとかいろいろなところを言われた中で、マニュアルというものが、衛生管理マニュアルはその次の年に出て、今、それは幾度か改訂をしながら、今でもそれを守りながら大量調理、給食は作っているわけですが、その当時は、加熱をすることでO157の菌は死滅するというようなことで、本当にサラダもキュウリもゆでるのですかとか、本当に今、昔を思い出すと、果物のオレンジを給食でつけるときにも、オレンジもゆでなきゃいけないのかとか、そんなことを大人たちがもう本当に真顔で、どうやったら食中毒にならないのか、見えないO157という菌に勝つことができるのかというようなことで、ずっと給食を作っていた。

その後、マニュアルができということで、26年たって、今、O157という食中毒はなくなってはいないんです。ただ、こうすれば防げるよというようなエビデンスですとか、論理、ロジックの下で、食中毒が起きないようにしているという状況で、今、こうやって新型コロナウイルスで、マスクをしながらこうやったら感染しないよねとかいろいろなことがありながら、来週からは、マスクは本人の判断に委ねる。でも、どうなんだろうか、安心なんだろうか、安全なんだろうかという。

安心と安全という言葉をすごくセットで使うんですけれども、安全というのは多分、きちっとした数

値で、これだから安全なんですよという決められた数値なりがあると思うんです。でも、安心というのは、その人の心の持ちよう、気持ち、心理だと思うので、安全が担保されていても安心できないというようなところの、安心と安全というこのセットで使う言葉なんだけれども、それを両方担保する難しさというのをずっと感じながら、衛生に気をつけながら、おいしい食を提供していかなければとって、ずっとまだ続いているというような状況です。

そういった中で、平成17年でしょうか。2005年になりますよね。食育基本法が制定されて、食育というものが日本で推進していかなければならないということで、今、こうやって食育推進会議も進められているところなんです。まず1つ目としましては、次年度は、多分、元に戻りたいというか、普通とかふだんどおりに早く戻りたいねと思うんですけれども、本当に前の普通とかふだんどおりに戻れるのかなと考えたときには、新しいふだんというか、新しい普通というものをつくり上げていかなければいけないのかなというふうに思っています。

〇157のときも、それまでは、学校給食でも千切りキャベツって出していたんです。でも、今、ゆでキャベツになっています。学校給食のマニュアルでは、生野菜は出しては駄目ですよということは書いてないんです。ちゃんと安全が担保されていけば出してもいいですよというふうにはなっているんです。なので、今、ミニトマトですとか果物はゆでていないと思います。よろしいですか？伊熊先生、それで。でも、千切りキャベツというと、躊躇しているのではないのでしょうか。

○伊熊委員 そうですね。ゆでて出すようにしています。

○山岸会長 というようなところで、ふだんどおりというか、それが新しいふだんというか、普通になって、今、学校給食は、食育、学校教育の一環ということで進められているので。

多分、2023年、今、少しずつ元に戻りたいね、戻ろうね、もっと昔どおりやりたいねと言いながらも、新しいふだんとか新しい普通というものを皆さんと話し合いながら、食育についてつくり上げていけたらいいなというふうに思っているところです。

食育基本法では、「共食」という言葉がすごくよく出ていて、先ほどの子ども食堂も、孤食を解決するためにやっていこうというのが、急に「黙食」という言葉がすごく前面に出てしまって、確かに、食と向き合って食べることも大事かもしれないけれども、共食の持つ効果というか、育ちというんですかね。人の育ちというのも大事なのではないかなというふうに思っているところです。

なので、2つ目として、共食についてなんですけれども、黙食というものを進めていきながらも、多分、私たちはこの3年間、いろいろと食というものと向き合っていた中に、食って本当に栄養補給だけじゃないなって。コミュニケーションの一つのツール。食を介して人とつながるとか、人間関係を円滑にするとか、何か栄養補給以上のものが、食というものには底知れぬ力、魅力があるのかなというふう

に思いました。

そういった意味では、先ほどのQRコード、非接触だし、すぐ見られてすごく便利ですし、そういったものを使いながら、対面とSNSと言えればいいんでしょうか、そういったツールですよ。こういったものをうまくつくり上げていった小金井市としての食育推進ができたらいいなというふうに思っているところです。こういったところはペーパーレスでいいよねとか、でも、ここは対面にしておいたほうがより人の育ちとして効果的なんじゃないかというふうに、そういったところも話し合っていけたらいいなというふうに思っているところなんです。

ラジオをたまたま聞いていたら、スイスのほうでは、非接触というのものもあるし、人件費の効率化というのものもあるかもしれないんですが、セルフレジが大分、日本も大分セルフレジが普及していますよね。バーコードでピット。でも、それとまた別に、セルフレジとまた別でスローレジというのが置いてあるそうなんです。スローって、ゆっくりという意味ですよ。そこでは、結構高齢者の方がゆっくりと対面しながら、ともすれば、そのレジの方とお話をしながら会計ができるというので、そういったセルフレジでスマートに精算を終えたいという人もいれば、やっぱり対話を行いたいという、俗に言う多様化というんでしょうか。その人その人のニーズがあつて。

そういったものもあるので、あれはこれじゃなくて、こういうのもいいよね、でも、こっちはこっちのほうが効果的なのかなというような折り合いというか、見極めをしながらやっていけるといいなというふうに思いました。今日は本当に、まさに子ども食堂の対面というお話もありつつ、こういったQRコードですとかペーパーレスという効果的な話も出たので、次年度も、こういった対面でなければ得られないもの、でも、こういったSNSを使った効果的な食育推進というようなこともできたらいいなというふうに思っているところです。

最後、3つ目は、もう本当に今さらなのですが、食というのは、先ほどの減塩のお話ではないですけども、健康であったり、もう一つは、文化の礎だなというふうに思いました。食文化という言葉があるとおりに、食というのは本当に文化を育む大事な営みなんだなというのを思っているところです。

昔、私、どなたの本か忘れたのですが、日本の戦後の食を表していた言葉で、戦後は胃で食べる時代。日本は、胃袋で食べる。要は、食べ物がなくて、戦後の貧しいときには、とにかく食べることが一生懸命。空腹を満たすことが、まずそれが第一というので、胃袋で食べるという時代になって、そこからだんだん高度経済成長が始まった中、今度は口で食べる。おいしいものを食べるという時代になり、そして、だんだん今度は、目で楽しむ。今も割と、インスタ映えとかという言葉がありますけれども、華やかなものとか盛り付けとか目で食べる時代に、そういったふうに戦後進んできた中で、今度は、成人病という言葉が生活習慣病という言葉になったり、いろいろな過食なり、運動不足も入るんですけども、

そういった弊害から見た生活習慣病があって、頭で食べる時代、考えて食べましょうというような、そういった時代になったかなと思います。

そうして進んでいく中に、東日本大震災、もう少し前でいけば、阪神・淡路大震災の頃からも少しずつですが、心で食べる時代。やはり先ほどの人間関係を円滑にするではないですけども、人と食べるというのは、とても心の育みというか、情操にも役立つというようなことで、例えば、今もいろいろな災害がありますけれども、温かいスープ1杯ですとかおにぎりを家族の安否を確認しながら食べた味が一番おいしかった。今まで食べた食事の中で一番おいしかった食事だったというようなことで、心で食べる時代というのが言われてきたかなというふうに思っています。

現代はどうなんだろう。胃なんだろう。口なんだろう。目なんだろう。頭なんだろう。心なんだろうかと考えるときに、今って人それぞれ全部違うのかなと思いました。先ほどのフードドライブの話じゃないんですけども、食になかなか困っている方も、困窮なさっている方もいる。反面、すごく映えるものに求めているという方もおられる。本当に今、価値観というのが異なって、多様化というのは今、本当に食でもあるんだなというふうに考えています。

でも、やはり食というのは生きる土台ですし、先ほど言ったように、健康や文化まで礎なので、こういった栄養格差とか健康格差というのはなくしていかなければいけないのではないかなというふうに思っています。そういった意味では、官公庁ですとか自治体ですとか、こういった私たちがやっている食育というものから、少しでもそういった格差をなくすために、そして、ひいては食育を広げていくためにどうしたらいいのかなというのを、本当に様々な専門的なお立場で委員になってくださっているこの推進会議で次年度もお話してきたらなというふうに思っているところです。

すいません。私はあまり長くお話ができないので、ぜひこの後、いや、私はこう思いますよなんていう御意見ですとか、何かお話をさせていただければありがたく存じます。どうぞ次年度もよろしくお願いいたします。私のほうからは以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

委員の皆さん方で、今の先生のお話について何か御意見がある方いらっしゃいますか。もし、すぐじゃなくて、この後、今、先生お話なさったんですけども、皆さんにも、1年これで終わりましたので、皆さんに一言ずつとか、皆さんがやっていらっしゃる、関わっている食育のお話でもいいですし、ほかに何かあれば、それのお話と今の先生の感想ということで、お一人ずつお話していただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○山岸会長 私はこんなことをやっていますというのでも。どうしましょう。そうしたら、どちらの…

○事務局 どちらでも。

○山岸会長 そうしたら、横山委員のほうからお願いいたします。

○横山委員 横山です。1年間ありがとうございました。

私は前回も、2回ぐらい参加できなかったんですけども、今日も、子ども食堂のお話を聞いて、私、子ども食堂について全然知らなかったなど。子ども食堂って、いつ行っても開いていて、入って食事できる場所なのかと思っていたら、月に1回しか開催されなくて、それもほぼボランティアで、野菜の提供をされていたりだとか、運営されている方がいたりだとか、本当にボランティアの力で成り立っているというのを今日知って、すごく驚くと同時に、すごくありがたいなというふうに思いました。

あと、フードドライブのこととか、あと、今日ではない、食育のホームページも、こんなふうにチラシを作られて、成人式で配布されたりとか、私全然、成人の子供はいないので、知らなかったんですけども、いろいろな取がされているんだなというのを今日も知ることができました。

あと、保健センターでの歯のイベントとか、それは私は子供と参加したことがあったので知っていたんですけども、学校での連携とか、あと、コンビニでの手前取りのPOPとか、本当に食育推進委員会を通していろいろなことを知ることができて、いろいろな多方面の方の力が合わさって小金井市の食育が成り立っているというか、推進されていっているんだなというのを実感して、とても感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ただ、それは、ここに出るから私は知ることができるんですけども、普通の市民の人というか、御近所さんとか、なかなか知る機会が、歯のイベントは学校でも周知されるし、すごく知っていたりとかはするんですけども、私もなかなか知るすべというのが、私は小金井市の市報で結構見ることが多いんですけども、もっとみんなに知らせる何かがあれば、この取組が広がっていったり、もしかして、協力したいと思ってくださるボランティアの方とか、何かできるんじゃないかなと思ってくださる方もいるのかなというふうに思って、もっと知ってもらうことも大事だなというふうに思いました。

私は小中の子供がいるんですけども、スポ少とか部活ですごく運動しているので、そこで、好き嫌いとかもしてしまうし、あと、お昼御飯を軽食にして、野球の試合を午前も午後もやったりしているので、そういうスポ少とか部活のほうでも、栄養とか食べることの大切さを伝えてもらう必要があるとありがたいなと思いました。ありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○雀部委員 1年間ありがとうございました。個人の活動の中を通してというお話をさせていただいたかなと思ったんですけども、以前もお話ししたんですが、今年の1月末と2月に、小笠原諸島の父島と母島の栄養連絡会というところで、小金井市の関係機関と連携した地域における食育推進ということ

で、小金井市の食育推進の事例からというお話を1時間ほど講師としてさせていただきました。

そこには、保育園とか老人ホームの栄養士さんですとか、あと保育士さん、それから、小中学校とかの養護とか家庭科の先生方が御参加されて、社協の方ですとか保健所の方が御参加されている、こういう感じの集まりですね。それにちょっとお話を、ほかから学びたいということがあったので、この事例をお話ししました。

この食育の進捗状況から、推進計画から、アンケートから全部読み込んで、相当何を聞かれても大丈夫のように読み込んで資料も作り、お話もしたんですけども、第一声、すごいというふうに言われたのが、いろいろなことをやっているの、本当にびっくりなされたというのが第一印象だったかなというふうに思います。

小笠原自体は、船で24時間かかるんですね。東京から。船でしか行ける方法がなくて、唯一、急病人が出て、本土のほうに人を運ばなきゃいけない、病人を運ばなきゃいけないときに、自衛隊のヘリで運ぶぐらいしか、それしかなく、それと一般の人は船で。それもヘリで10時間かかるというところだそうです。本来、私は行ってお話しするはずだったんですけども、コロナもありまして、オンラインで会議に参加してお話ししました。

各課ごとに何をやっているかという分け方にしてお話しさせていただいたんですね。関連機関と各課が一体何をやっているかということの説明したんですけども、そのときに、小金井の食について、より真剣に資料作りも含めてやったときに思ったのは、いかに恵まれた状況にあるかということ強く感じました。

小中学校に給食があるのも、小金井の人たちは当たり前で育っているかもしれないですけども、小笠原なんかは保育園でも、父島には給食はあるんですが、母島には給食がなかったりですとか、小中学校はずっとお弁当という状況なんです。人数が少な過ぎて給食ができない。あと、野菜も島に送るので、この辺で買うよりもずっとずっと高い。いろいろな制限のある中で皆さんやられているというお話をちょっと聞いて、小金井市の食育がまず恵まれていることと、給食をやっている土台があるので、食育が随分やりやすいなというふうに感じたのと、各課とか関連機関のアイデアとか工夫がとても豊富であるということに改めて気がつきました。

先ほど横山さんがおっしゃっていたように、知るすべが、なかなか、こういうことをいろいろやっていますといっても、知るすべがないということなので、改めて勉強する機会があってもいいのかなというふうに思ったりもしたので、もし食育の知識のある人ですとか、あと、こういう会議に参加してちょっとお話ができるような人とかそういう人は、食育コーディネーターを通して、何かこういう集まりがあったときに、そういう話が聞けるような状況。市でやっていることだけじゃなくても、食育のいろい

るな活動をやっている方がその立場でお話しして下さるのを聞きたい方もきっといらっしゃると思うので、そういう場が様々な場所であってもいいかな。それで、より多くの市民の方に知っていただく機会になるかなと思いました。

小金井市すごいなと、改めて、食育、はっきり言ってすごく進んでいる市だなというふうに、ほかを見比べるとよく感じるんですけども、食育推進基本条例という条例が2013年にできたんですが、全国で食育のこの条例があるのは30しかないんです。市町村を全部数えて、それに都道府県も、ちょっと重なる部分もあるので都道府県も全部数えて、どのぐらいの割合だろうと思ったときに、全体の1.7%しかこの条例は持ってないんです。まず、それがすごいということと、この条例をつくったときに、私はオブザーバーで中に入ってつくったんですけども、そのときも、議員の方全員参加で、超党派でつくったという経緯があるので、それも、小金井の協力体制はすごいなというふうに思いました。

食育市民アンケートをよく読み解いてみると、食育の摂取状況がとてもすごくて、小学生なんかは、毎日朝御飯を食べている率が97%なんです。すごく高いなというふうに思います。あと、食品ロスは、個人個人の意見なのであれなんですけれども、ほとんどないというふうに答えている方がすごく多いんです。食事バランスについても改善したいと思っている方が、すごく意識が高いというか、改善したいと思っている方がいらっしゃるの、そういう方たちにいろいろ情報提供ができればなというふうに思います。

先ほどちょっとお話にありました食育ホームページの中で、孤食についての説明はしているんですけども、それに対して私ども食育ホームページで考えたのは、6つの共食ということで、共食のキョウは、共に食べるで共食なんですけれども、そのキョウだけではなくて、キョウの部分の漢字を全部変えて、その漢字がどういう意味を持っていて、それに即した市内の活動に一体どんなものがあるかというのをホームページに全て載せています。

例えば、共に食べる共食も6つの共食のうちの1つに入っているんですけども、それ以外に、協力して作るということで「協食」ですとか、あと、教える、こういうお話をするですとか、ということで知識を得るといこと教育のキョウで「教食」。あと、興味を抱くということで「興食」。それから、もてなすの「饗」です。ちょっと難しい例なんですけれども。饗宴の「饗」ですね。もてなすという意味なんですけれども、その「饗」ですとか。郷土の「郷」で、餅つきとかそういうことも地域で行われているので。6つの共食ということで、孤食のネガティブなイメージから、ポジティブなイメージの言葉を発信していこうという活動をしています。

よろしかったら、一読いただければなというふうに思います。それに即した活動がどんどん広がってくれば、楽しくみんなでやれるかなというふうに感じました。

以上になります。ありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございます。牧野委員、よろしくお祈りします。

○牧野委員 牧野です。今年度から参加しまして、初めてのことでびっくりする反面、本当に目からうろここととか、いろいろな視点で学ぶことができ、非常に有意義な時を過ごさせていただいて、皆様に感謝しております。

ちょっと疑問というか、皆様にお聞きしたいなと思ったのが、先ほど山岸先生がおっしゃられた栄養格差、健康格差という点なんですけれども、私はよく通販とか利用するんですが、通販に必ず載っているのがサプリで、そのサプリを見ると、説明とかを見ると、必ず栄養素、お野菜なんかでも、土も野菜も何十年前かとは全然栄養価が違う、足りないと言っている皆さん絶対おっしゃるんです。サプリもすごくお値段ピンキリなんです。

サプリ以外でもそうなんですけれども、昨今、すごく食費が値上がっていますよね。うちは食べ盛りの男の子がいるので、ちょっと食費を安くしたいなと思ってドラッグストアなんかに行ってみますと、お肉がスペイン産とかブラジル産とかの鶏肉とかがあるんですけれども、異常なぐらい安いんですよね。あんな地球の裏側から、遠いところから来ているお肉で、こんな安いのを食べさせて、5年後、10年後、何か支障が出ないのかとちょっと空恐ろしくなってしまうんです。

個人的に、我が家は生活クラブという生協を取っているんですけれども、これは昔、値段に糸目をつけずにぼんぼん頼んでいたんですね。子供が生まれる前に。そうすると、それだけで平均10万ぐらい行ってしまうと、これはおかしいと思って、今、かなり抑えているんですけれども。でも、そうやって1つ何かこだわって栄養価とか味覚をちゃんと育てるとか理想を上げていくと、お金が追いついていかないという現実があるんです。その辺を、一体こういったところに参加されている皆様は、どの辺りで折り合いをつけていらっしゃるのかなというのがちょっと知りたいなと思ったところです。

以上になります。

○山岸会長 ありがとうございます。どうでしょうか。サプリメントの話も出ましたし、何かそれに対する御意見。お願いします。

○太田委員 サプリメントを昔、食品メーカーで開発していたので、内情を言ってしまうと、ブランドのものは高いです。成分の含有量を見て、比較して買うというのが基本中の基本で。例えば、B群のミックスのビタミンだと、某メーカーが格段に安くて、品質もよかったです。見ればある程度分かります。よく成分を比較して、値段との兼ね合いで買っていくというのが正しい買い方で、一番まずい買い方は、通販なんかで、やたら効果がありそうげなことを言っていて、いつまでも値段のところが出てこなくて、一番下のほうに行ったら値段が出てきて、もうここまで読んだから押すしかないみたい

な、そういうものが一番悪質ですよ。

あと、食費が上がっている問題については、後で私自身、お話をします。

○牧野委員 じゃあ、楽しみに。

○山岸会長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

○妹尾委員 孤食の問題がこの食育のもともとの問題提起だったのかもしれませんが、好きで孤食している人はいないと思うんです。独り親で親が深夜まで働いていれば、1人で食べるしかない子供たくさんいるわけですよ。野菜を食べたくても野菜が買えない家庭もある。携帯電話を持ってなければQRコードは読めません。

誰一人取りこぼすことなく、恵まれている人間、持てる者だけが食育啓発の対象にするというのではまずいと思います。その辺の目配りが大切だなということを1年間参加して感じました。

○山岸会長 ありがとうございます。それでは、太田委員、よろしくお願いします。

○太田委員 今年1年、お世話になりました。結構びっくりしたのは、こんなにいろいろなことを市ではやっていたのか、全く知らなかったというところで、多様性といいますか、種類の豊富さということについては非常に驚いたんですが、逆に、ちょっと1個1個が小ぶりかなど。

フードドライブの話でも出ましたが、需要と供給のバランス。いっぱい来たら、それだけいっぱいいろいろなところに届けばいいじゃん大きくしていこうというよりも、大きくすると不都合が出てしまうというようなところ。

先ほどちょっと減塩の話もしましたが、2月10日に、市のほうで薄味の企画をやられたと思うんですけども、それが定員が僅か10名ぐらいだったと思うんですが、10名か、国民的な課題なのになどちょっと思ったりして。100名ぐらい、大きいところで、それなりに著名な方を呼んできて、100名と言わず、数百名でやればいいのかと、ぐらいの重要なテーマなのになどというふうに思ったんですが、これもやっぱり実際に行政でやろうとすると難しいのかなというところで。

知らしめることは、ホームページとかを活用すれば何とかなっていくのかもしれないとは思っているんですけども、その後のことは、ホームページも皆さんボランティアでやられていますし、個人のボランティアでは、大きくしていくというところでひるむというか、誰がそれを回すのになってしまうのかなというところで。種類は豊富なんだけど、小ぶりでちょっと止まっているのかなというところが気になっています。お力添えができればなというふうに感じた次第でございます。

食費が上がっているのは、本当に私も単身赴任中は100%自炊なので、結構いいものを食べて、単身赴任先の食堂がまずいところしかないんで、それだったら自炊のほうがいいやということで自炊をしているんですが。本当に恐ろしいぐらいの値段の上がり方で、幸い、別にお金に困っているわけでも何

でもないんですけども、私の食費の節約法は、昼はゆでた大豆だけです。

ゆでも、保温ポットに朝100グラムぐらい入れて、熱湯を注いで、昼にゆでているわけじゃないんですけども、それも富山のほうから通販で取り寄せている1キロで300円ぐらいのエイレン豆というのがある、別に節約しているわけじゃないですが、それを食べると、たんぱく質が25グラム取れるということで、昼はそれだけにしています。

というのは、昼にお米を食べると、血糖値が異常に上がるということが分かったので、健康のためということと、結果的に非常に食費が少なくて済みますが、この年60も超えたので、3食に1食ぐらいは捨てて、2食ぜいたくをしようと思っている結果、健康にもよく、懐にもいい生活が続いております。皆さんもぜひ、昼は大豆だけではなくと。安上がりです。以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。中谷委員、お願いします。

○中谷委員 行政の福祉保健部長です。皆さん、1年間どうもありがとうございました。福祉保健部に来て、食育に関わって今年で5年目になるんですけども、最初の2年間は、私も不慣れなところに来て、皆さん諸先輩いらっしゃるところでいろいろ教えてもらってとあったんですが、決定的に変わったのは、コロナで全然変わってしまったのが、3年前からちょうど変わってしまって、いろいろな栄養士の先生方がいろいろなことでやっていただいたことをここで披露していただいて、みんなで共有化して、食について考えるということができてきて、健康課の事業でもいろいろな、食とか口腔、歯の動きとか、そんなのも食の中で考えたりとか、小中学校の、特に中学校のスポーツに関して、どのようにスポーツドリンクを飲むとかいろいろなことをやりながら、教育の面とか食というのをどこから捉えるという、出た題材でいろいろ考えてきたのかなと思っているんです。

食が今おっしゃっていただいた健康の面だけじゃなくて、食を通して楽しみだったり、団らんであったり、教育的な面だったりして、食の捉え方はいろいろ違っているなというのをこの場でいろいろ勉強できたと思っております、それがコロナによって随分狭められているなというのが決定的に違っています。先ほど出ましたけれども、定数、定員の枠の問題とかも、結局、対面できないところから、ウェブという形の新たな手段で、新たなコミュニケーションツールが皆さんに浸透したといういい面はあるんですけども、対面によってやるということが、そのよさが見え隠れしている、そういうような感想を持つような時代になったのかなと思っています。

ただ、ここにお集まりの皆様の方で出ている小金井市の食育については、議員提案で出てきたという、下地の、土台のところは全然ほかとは違うところもあるので、そういったところをこういう皆様の方で少しずつ育て上げているということにも大きな特色があるというふうに思っている、出た「キョウ」の字6種類あると、そういったこともぜひ皆さんが分かっていたら、小金井市

の食育というのの独特のいいところを、長所を生かしていただくような会が今後も継続できればと願っております。

私ごとですが、私は3月で退職になりますので、来年はまた、ここに来る者は違うことになりまけれども、引き続き、小金井市の食育をよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございます。伊熊委員、お願いします。

○伊熊委員 東小学校の伊熊です。今年度1年、どうもありがとうございました。東小学校では今、2月、3月に入りまして、各学級から御飯をもうちょっと食べたいよというふうに言われていて、とても子供たちの成長を1年で一番感じる時期になったなというふうに思っています。

給食の時間は、小金井市のガイドラインから、東小学校では黙食という言葉はなくなったんですけども、いまだに、前向き給食と、それから、御飯を食べているときはお話ししない、食べ終わった後に、マスクをつけて静かにしゃべるといふようなことをやっています、子供たちからも黙食のときと何が違うのみたいな感じで言われながらも、感染症対策には気をつけているところです。

食育に関しては、学校全体で給食委員会を中心に、SDG s活動、ハチドリプロジェクトの活動として、食品ロスをなくそうということで、各学級の給食準備時間を減らすような活動を、子供たちが自分から何をしたら食品ロスが減るだろうということ考えながらやっています。

山岸先生のお話を聞いて、当時の学校給食というか、O157事件から恐怖と緊張、試行錯誤しながら、もがき苦しんで対応していたという話を聞いて、今、自分たちがこの衛生管理マニュアルを気をつけながらやらせてもらっているのは、そういった大変さがあってこちらでやらせてもらっているところだなというふうに感じました。

安心・安全ということで、今、自分たちが取り組んでいるというか、気をつけているなといったところが、食品アレルギー、食物アレルギーが一番気をつけて取り組んでいるところでして、東小学校では今37名。760人だったかな、全員で。760人中37名が対応しているんですけども、その中には、卵8人、乳製品が2人、エビ・カニ8人、魚卵が9人で、ナッツ類が12人、果物が7人など、本当に多様な食物アレルギーに対して対応しているところです。

食物アレルギーを絶対に起こさないぞという気持ちで、それこそ恐怖と緊張に震えながら対応させてもらっているところなんですけれども、今後とも、安心・安全を子供たちに届けられるようにやっています。以上です。どうもありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございました。萩原委員、お願いします。

○萩原委員 萩原です。1年間お疲れさまでした。ありがとうございました。

私もこの推進委員に参加させていただいて、横山さんとか伊熊さんとか給食のほうでも非常にお世話

になりまして、あと、学校の3年生の授業にも非常に、お話いただいて、子供たちと関わる機会がすごく増えたのはありがたくと思います。東小なんか、給食で大分宣伝していただいているので、毎回、子供らに今日出たというふうにも言われているので、なかなかうれしいです。いっぱい顔が広まりました。ありがとうございます。

私の活動として1つお話しさせていただきます。前回、先週、この前の土曜日に、環境教育実践フォーラムということで、学芸大の椿先生に御招待いただいて、松嶋さんからもお話いただいたんですが、そちらのほうで、農業部門のほうからということで、食と農ということで、農業部門のほうからお話のほうさせていただきました。

私の課題としては、地域の地場産の自給率の向上を目指して動いているんですけども、2018年の都市農園の貸借円滑化法が制定されるまでは、自分のところの畑だけで動いていたので、どうしても自給率を上げることもできず、非常にどうしたものか、みんなと循環型をうまくやろうと言っても、なかなか給食の水準も上げられずに来ていましたので、まず、そこを課題としてずっと考えていました。

貸借のほうが始まりまして、私のほうで空き農地をお借りして、今、活動もしているんですが、まだまだ、借手は何人か出てきているんですけども、貸すほうですね。どうしても高齢化になって、自分たちの農地を、自分のうちで食べる分だけやっている農家さんって結構またいらっちゃって、空いている農地がまだまだあるというのが現状です。ただ、貸してほしい人がいっぱいいても、貸すほうは人を入れたくないという人がまだ結構いらっちゃって、その辺をどうにかしなければいけないと考えながら活動はしていました。

私は幸いなことに、2軒畑のほうをお借りできたので、今、そちらのほうでも作付して、出荷率のほうをなるべく上げるとともに、いろいろ作付けはしているんですけども。ただ、貸すほうにも問題はありますが、借りるほうもやはり、都市農家というのは、人手がほとんど、家族経営が多いので、いないので、そこをどうにかしたいなと思い、いろいろ考えていました。

その貸借が始まって、畑を借りて活動を始めたと同時に、わくわく都民農園、あちらのほうで私と同級生が東京都のほうに貸借しまして、貸して市民農園を開園したんですけども、そちらのほうで講師をしてくださいということで、私ども青壮年部のほうにお話が来まして、そこの方たちに今、シニア層のほうに農業を教えているんですが、その方たちは基本1年更新の3年までの期間しか、最大3年までしか、期間、その農園を借りられないんです。その人たちが今後、農家をやりたいんだが、その後、ここが終わったらどうしたらいいものだろうという方が、非常に声が多かったので、その方たちに御協力をいただいて、貸借農地のうちのほうを一緒に手伝ってもらって、給食なり地場産の自費率を上げようということで、今、活動し始めました。

この前、1,000平米の畑のほう、そちらのほうに先発としてジャガイモ50キロのほうを作付けしました。50キロというあまりぱっと出てこないと思いますけれども、大体、50キロというと、20メートル作1本、1作20メートルぐらいあるんですけれども、そちらに大体種芋として60個落ちるので、大体1,200株ぐらいは植わっています。計算すると大体500ぐらい。少なくとも500キロぐらい、多ければ1トン近くぐらい見込めるような数量で私のほうも作付をしてもらいました。

ボランティアさんがいるおかげで、多分、私が1人で作業を行うと2日間かかるような作業が半日で全て終わりました。一から、ジャガイモ切る作業、土の肥料を入れて、作を切る作業、種を落として肥料まで入れるという作業を全部含めて、大体10名ほど来ていただいたんですが、それぐらい早く終わりました。

一番これから今考えているのが、例えばですけれども、自分のところの畑は、近隣の農家同士で作付のほうをしっかり、協力して土づくり、収穫作業、一気にやりたいものに関しては、慣れている人間のほうが非常に早いので、そういったローテーションを組むようなイメージですね。そういったもの。あとは、中間管理とか、出荷物の荷造り作業とか、そういったものをボランティアさんに来てもらってやっていただく。そういった循環型農業を目指そうかなと今動き出しているところです。

そのためにやりたいのが、今、モデル事業としてやっていることをマニュアル化して、畑の持ち主さん、経営とか作付がだんだん大変になっている方に畑を貸してもらえるようなモデル事業を、今、こういった形で起こして、自分の畑で自分でやりたいのであれば、ボランティアさんに来てもらう。もし駄目なら、うちは農家に貸借してもらって、ボランティアさんと一緒にそういった作付をもっともっと生産緑地をそのまましっかり継続してつくれるような、存続できるような形でできれば、もっともっと地産地消の自給率アップもできるでしょうし、食育にも非常にもっと幅が広がるかなと思います。

何とか今少しずつ動き出して、ここに入った当初、数字を見て本当に驚愕したので、もっともっと周知をして、生産緑地を守って、入りづらかった畑が全て皆さん来てもらえる畑を目指していこうかなと思っております。

あと一つ、循環型として、農業に関してですけれども、この前、学芸大、辻料理学校のほうの先生と生徒さんと話したんですが、堆肥づくりのほうも推進してやっていきたいなと思います。小金井市の生ごみ堆肥もそうですけれども、あとは、食品のほうから出るコーヒー豆のかすとか、あとは、小金井市、いろいろ落ち葉を集めて、そのほうを混ぜてしっかり堆肥をつくる。今、そういったものも活動に入れないと、肥料なども非常に高騰していて、うちらも活動するのに非常にコストがかかるので、そういったものも、ボランティアさんなり学生さんなり、全部が一緒になっているものを循環型にしていくと、もっともっと市から盛り上がっていくのではないかということでお話しさせていただいて、

今後、つながるようなお話も逆にいただけたので、非常にありがたかったです。

やはり都市農業なので、臭いが出る堆肥などは非常に作りづらいので、コーヒー豆とかそういった臭いの少ないものでしたら、学芸大の中学校の先生からも、こちらのほうの敷地内であれば少しできるのではないかとということでお話も少しいただいているので、そんな実現できそうなお話が出てきているので、すごく僕のほうもやりがいがあるなと思いますので。

また、そういった御協力をいただきながら、地元で全部なるべくできるようなものがあると、非常に注目度もあるかなと思いますので、活性化に向けてやっていきたいなと思いました。そういったお話をこの前させていただきました。以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。桜井委員、お願いします。

○桜井委員 1年間、ありがとうございました。また、前回欠席してしまいまして、申し訳ございませんでした。

今、萩原委員のほうで、農協に関わる青壮年部の活動につきましてはお話をいただきましたので、農協といたしましては、まず、今年度、昨年11月に小金井市農業祭が3年ぶりに開催できたというところは、大変喜ばしいことだったかなと感じております。中でも野菜の部門につきましては、たくさんの出品物、また、たくさんの市民の方が中を観覧していただいて、地場産野菜のすばらしさを感じていただけたのかなと感じております。

また、食育につきましては、先ほど青壮年部の活動でも御紹介ありましたが、農業祭の際には、絵画コンクール、市内の小学生が農のまつわる絵をたくさん出品していただきました。こちらの出品点数につきましても、第1回目からずっと上り調子で増えているということは大変ありがたいなと。また、そこで賞を取ったものを食育カレンダーにするというところで、また、カレンダーになって、なおかつ、宮地楽器ホールの大ホールで表彰式をするというところは、子供たちにとってもいい思いになって、非常にすばらしい事業ですので、今後ともしっかりと続けていきたいと考えております。

また、農業振興連合会という農家の方たちの団体があるんですが、そちらにつきましては、ジャガイモやサツマイモの収穫体験事業につきましても、子供たちのいい体験ができていますので、こちらも引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

また、食育については、日々の関係で一番重点を置いているのが、先ほどから、店舗の販売で野菜をじかに触っていただく環境、また、ここでもお話があった学校給食での地場産比率の向上、この2点に尽きると考えております。

店舗販売につきましては、先ほど、これどう作ったらいいんだろう、分からないから買わないという状況を少しでも減らすべく、パート従業員のレベルの向上、並びに、使っていいよということであれば、

こちらをうまいこと野菜のところに貼る、出入口に貼るとか利用させていただいて、双方でうまくリンクしていければなと感じました。

また、学校給食につきましては、本当にここで、平成29年から東京むさしが事業登録をしまして、年々、コロナでここ3年ぐらいは横ばいという比率にはなっておりましたが、今年につきましては、1学期では、一番よかったのかな、十七、八%まで上がりました。

しかしながら、食育基本法で目標と掲げられております30%、こちらにつきましては、近隣市では小平市がもう三十二、三行っているのかな、すごくいい数字が出ているんですけども、小金井市のほうにつきましても、今、貸借のところで援農ボランティア、市民の力を借りて、ジャガイモなどの普及率を上げることで全体的な水位を上げていこうという活動をするのとともに、日々、しっかりと生産者の作物を学校さん側へPRするとともに、安心して安全——この安全というのは難しいところもありましたが、提供できるようにしていきたい。それで、近い将来30%を超えられるようにしていきたいなと考えておりますので、ぜひ皆様方の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

J Aからは以上です。

○山岸会長 ありがとうございます。続きまして、服部委員、お願いします。

○服部委員 服部でございます。去年の1回目から、初めて参加させていただきました。大体1年間たつて、この食育推進会議というのがどういうことをやっていらっしゃるかが分かったようなつもりですが、分かったようなつもりとはいっても、各委員がそれぞれの立場で、いろいろな角度からいろいろな発言をされるので、それはそれで好ましいことだと思うんですが、いろいろな話が飛び交ってしまって、正直言って、私個人的には消化不良だなと。ある程度は、市政に反映してもらうための諮問会議的な存在だとするならば、若干ターゲットを絞った方向性というものもある程度は必要んじゃないかなというのが、1年間たった正直な私の感想です。

ちなみに、私のほうの立場、歯科医師会のほうの立場としましては、また今年も、毎年恒例の歯と口腔の健康というのを、今年は恐らく宮地ホールで行われると思いますので、足の便がかなりよくなりますので、皆さんぜひ、お時間ありましたら御参加いただければということです。

以上です。ありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございます。そうしましたら、北脇委員、お願いいたします。

○北脇委員 P T A連合会のほうから来ている北脇です。私は小学校4年生と中学校2年生の男の子の母なんですけれども、小学校とか中学校の子を持つ親がこういう食育の委員会に参加させていただいて、それをP T Aの本部のほうに持って帰っていけるというのは、すごくありがたい粹だなと思って、いつも感謝して聞いております。いろいろな方がいろいろな情報をくださるので、もちろん私も知らないこ

とがありますので、それを本部のほうの委員の定例会のときにお伝えさせていただいています。

食育というのは、人生で何度か一番興味が湧く時期があると思うんですけども、3つあると思っていて、1つが子供の頃。もう一つが、親になって、あとは、大切な家族ができて、その人を健康に、一緒によりよく過ごしたいというために食育に興味を持って。あとは、自分が病気になったとき。この3つのときに食育を、すごく興味が湧いて、知識欲が高まる時だなと思っています。もちろん、個人的には、それ以外にも湧いてほしいと思っていますし、湧いている方もいらっしゃると思うんですが、その3つが共通認識かなと思っています。

先ほどいろいろな委員の方がおっしゃっていて、情報を届けるとか、知っていただきたいという思いがすごく伝わりました。私もこの委員会に参加させていただきまして、いろいろな情報を聞いて、そうだな、やっぱり大事だなというのをかみしめております。ただ、受け取ってくださる方が、その人が欲しいタイミングじゃないときにどんなにいい情報だよと言っても、聞いてくれなかったり、講演会とか、さっきも薄味の話とかもありましたけれども、ああいう話とかも、興味ない方はどうしても参加してくれなかったりとかして、すごく残念だなと思うときがあります。

なので、じゃあ、そこを変えていくために個人的にどんなことができるのかなというのは、ふだんの会話の中で、具体的に一言添えていろいろな方に伝える。まずそれが一番、すごく地味で当たり前のことなんですけれども、大事だな。ふだんから話題にする、気づきを与えるというのは大事だなと思っています。

先ほど、私が個人的な活動の中で「えにえに」サイトのほうを運営していますという話で、あと、「のびのびーの！」サイトのほうも運営しています。こちらのほう、ちょっと宣伝になってしまうのかもしれないんですが、簡単に説明させていただきますと、「のびのびーの！」サイトは、小金井市の子育て、子育て支援団体100団体以上ありまして、非営利の団体、そういった方たちの横のつながりをつくって情報を発信しているサイトです。

なので、今、月に小金井市の方が2,000人最低でも見ていて、多いと4,000人超えたりとかしています。そういうサイトなので、子育て中のママ、パパがそのサイトを見て週末の予定を決めたりとか、「のびのびーの！」サイトを見て来ましたみたいな感じのがすごく多いんです。なので、もしよろしければ、御連絡いただければ、そちらのほうに情報を掲載することもできます。

ただ、食育の関係は、松嶋さんのホームページのほう私も見て、フェイスブックとかも見てるので、その関係で使わせていただいたりとかもしているので、大体は載っていると思うんですけども、それ以外に、これアピールしたいから載せて、お願いしますというときには、お問合せフォームがありますので、そこから申し込んでいただければ、掲載することもできます。

そのときには、さっき言った一言添える。これあるよ、おしまいじゃなくて、これがどういうふうによいよ、どういうところで役に立つよというのを一言添えるだけで、全然拡散力が変わるんですね。なので、私たちもそれを意識していますので、何か今後情報がありましたら、一言添えてこちらまでお知らせいただければ、少しは拡散のお手伝いができるかなと思っています。ありがとうございました。

○山岸会長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

○井上委員 いろいろ自分なりに一生懸命やっておるんですけども、あまり、皆さんにうまく伝わったのかどうか、フードドライブのことも子ども食堂のこともなんですけれども。これを機に、私もいろいろ、これをもうちょっと広げていかなければ、せっかくの機会を生かすことにならないんじゃないかというふうに思うんですけども、全くどこからどうやって手をつけたらいいのか、社協と相談しながらというふうに思っております。

子供の孤食をということなんですけれども、私は高齢者なので、高齢者の孤独も何とか皆さんと一緒に、配食サービスやなんかもありますが、とても難しい問題もあつたりしますけれども、高齢者の孤食についても取り組んでいければというふうに思います。フードドライブ、子ども食堂、これを機に何かもうちょっといい方向に持っていければというふうに思います。

○山岸会長 ありがとうございます。松本委員、お願いします。

○松本委員 多摩府中保健所の松本です。1年間どうもありがとうございました。

今回、この会議に参加いたしまして、小金井市さんは近隣の他の市と比べても、本当に色々なことを沢山されているなど、勉強させていただいた1年でした。

保健所の事業としては、特定給食施設指導というのがあります。現在多摩府中保健所の管内に、公立学校を除いて660ぐらいの給食の施設があるのですが、こちらの施設に巡回等いたしまして、給食や食育の実施状況を伺ったり、栄養管理・衛生管理関係の帳票を見せていただいたり、一種、お悩み相談のような側面もあつたりするのですが、お話を伺ったり改善のための助言をしたりしています。

保育園、幼稚園等を回ると、コロナになってからこの3年間、例えば、コロナ前だったら、芋掘りをした後に、そのお芋を使ってスイートポテトをみんなで作ろうみたいなクッキングといった体験型の食育ができたものを、今はクッキングは避けて、芋掘りをした後の芋はそのまま持ち帰らせているというような施設が非常に多く、いつどのようにそうした体験型食育を再開していこうかということで皆さん悩んでいるような状況です。

保健所としては、例えば、給食施設の方を対象に定期的に開催している講習会等、コロナになってからは、オンラインで開催することが多いんですが、例えば、グループワークをする回ときには、集合の形での開催に戻して、活発に意見が交わされ、給食施設間の情報交換が図れるような形で実施する、

そんな施設間コミュニケーションの橋渡しができるといいなと思っております。

○山岸会長 ありがとうございます。お願いします。

○松嶋副会長 ありがとうございます。今、いろいろな方の話をずっと聞いていたので、自分が何を話そうかなと。ところどころ、自分が言おうと思っていたことを皆さんおっしゃるので、もうあまり話すこともないなと思っているんですけども。

私は今、食育に携わって大体10年をちょっと超えたところになります。ずっと小金井市の食育をやっている中で、食育にはいろいろな側面が本当にあるんですけども、そのうちだんだん、農業、食と農の関わりについて考えることが多くなってきて、もともと、食育ホームページのほうで野菜を扱っているということもあって、6年前から、ちょうど市民枠で農業委員というのに拝命されまして、もともとは農家の方だけの委員だと思うんですけども、そこに市民として入ることで、農家の方と市民をつなぐようなミッションなんだなというふうに感じて、食育と農業の両方を見ながら、ちょうど農家と市民の方の間ぐらいの立場で活動をこの6年はさせていただいています。

もともと、小金井の野菜を、先ほど言われたように、食料自給率という意味でも、もっとも市民の方にとって食べていただきたいというのが、それが究極的に私のミッションなんだなというふうに落とし込まれてきていて、そのためには農地を守りたいということで、多分、萩原さんと裏表のような感じで、萩原さんは野菜を作る、私は市民の方に食べていただくという一番最後の出口で、どれだけでもニーズが高まれば作っていただく機会が多くなりという、いい循環をつくっていく一端をお手伝いさせていただければというふうには今思っています。

本当に農地の問題というのはすごく課題が多くて、どんどん農地が、小金井の農地も大体年々1ヘクタールずつぐらい減っているんですね。こうやって数えると、小金井公園の面積以下というのが、ここ四、五年ぐらい前にそういうふう聞いたんですけども、だんだん減ってきて、ほとんどなくなってしまふ。また、なくなる面積がどんどん増えているんですね。1ヘクタールずつだったのが、1.2ヘクタール、1.3ヘクタールみたいな形で、差引きするとどんどん減っているなと思って。

農業委員会に出ていると、大体の情報としては、次ここが宅地になりますなんていうことも分かるんですが、あそこも、あそこも、毎月、手のひらからこぼれるように農地がどんどん減っている状況を目の当たりにして、最初はそんなふうには思っていなかったんですけども、これ何とかしなきゃという。でも、私が農地を買うわけにはいかないのというような形で、じゃあ、自分に何ができるのかなということであれば、どんどん農家の方に作っていただけるように食べる。自分1人で食べるわけにはいかないの、市民の方に食べていただく。これに尽きるなというふうには思って、今、活動しています。

たまたまこの間、先ほど萩原さんも言われた、辻調理師専門学校と学芸大が連携してセミナーを行う

ところに御縁がありまして、江戸東京野菜のほうから最初は入っているんですけども、そこで講演をしてほしいというふうなお話をいただいたんですが、もともと都合がつかなかったのもあるんですけども、ぜひ萩原さんにその方たちとつながっていただきたいなとずっと思っていたので、今回、お話をさせていただいたところ、いろいろつながっていただけたようで、そういう意味でも、今後、小金井の食育のステップアップというか、全体の底上げをしていくのにも、やっぱりそういう拠点も大事だと思いますし、みんなでまた食育推進会議でいろいろな課題を解決していけるようなお手伝いできればなというふうに思っております。1年間ありがとうございました。

○山岸会長 委員の皆様、本当に貴重な取組や御意見ありがとうございました。これを踏まえて、また次年度の課題も見えてきていると思いますし、また引き続き、続けていきたいと思います。

それでは、事務局より、次回についてお願いします。

○事務局 今年度はこれで終わりなんですけれども、次回につきましては、令和5年度、5月の中旬から下旬の水曜日の午後2時からを予定しております。また日程が決まりましたら、皆様にお知らせしたいと思います。

それから、今回の会議録案ができましたら、前回同様メールにてお送りいたしますので、御確認等よろしくお願ひいたします。

○山岸会長 ありがとうございます。では、長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第4回小金井市食育推進会議を終了いたしたいと思います。皆様、本当にお疲れさまでございました。ありがとうございました。

— 了 —